体験・行事支援タイプ

児童生徒の体験活動の支援

【例】学校農園での実習等の支援/校外学習（遠足）の引率　等

読み聞かせ等の支援　等

様式

体験・行事支援タイプ

地域に学ぶ八月踊り　～八月踊りを引き継ごう～

学　校　名	奄美市立芦花部小中学校	対象学年	全校児童生徒
支援活動内容	郷土文化伝承活動の充実を図るため，支援ボランティアが，地域に伝わる八月踊りを児童生徒に教える。		

１　活用のねらい（学校の願い）

学校行事の運動会練習において，老人クラブの方々をゲストティーチャーとして招聘し，地域に伝わる八月踊りを伝承していただき，運動会では共に踊ることをとおして，郷土愛を育み，校区民との親睦を図る。

２　支援ボランティアの募集方法

教頭が地域の老人クラブ会長へ授業の趣旨及びねらいを伝え，会員への授業参加を依頼している。

３　支援ボランティアの出番

⑴　老人クラブ会員の方々と婦人会長が参加した。まず，八月踊りについての思いや他の地区の八月踊りとの違い，踊るときの留意点などを説明した。

⑵　支援ボランティアの方々と児童生徒が円を作り，踊り方や掛け声の在り方など，様子を見ながら的確にアドバイスしていただいた。

４　学習の成果等

⑴　八月踊りを教えてもらい，運動会で共に踊る活動をとおして，校区民との交流を深めることができた。

⑵　地域素材や人材の活用により，文化の伝承と郷土愛を育むことができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

本校区は芦花部と有良の２地区からなり，踊り方も異なるため，隔年交代で指導してもらうようにしている。

様式

体験・行事支援タイプ

八月踊りをマスターしよう！

学　校　名	奄美市立東城小中学校	対象学年	全校児童・生徒
支援活動内容	川内集落の方々に協力していただき，八月踊りの唄と踊りをマスターし，運動会では一緒に唄ったり，踊ったりしながら保護者や校区の方々に対して披露する。		

1　活用のねらい（学校の願い）

校区の人口減少とともに，伝統文化が廃れつつある状況を考慮し，「伝統文化の担い手育成」を校区と一緒に目指し，教育活動の一環として地域人材（川内集落及び郷友会）を活用した体験的活動を実施する。

2　支援ボランティアの募集方法

東城小中学校の主要校区（川内・見里・城）の嘱託員を中心に土曜授業を活用し，毎年輪番で担当していただいている。

3　支援ボランティアの出番

⑴　嘱託員（集落区長）が中心となり，集落放送を利用して集落の方々への参加呼びかけを行ってもらった。集落の方々も高齢化が進んでいるため，郷友会（地域出身者）への協力依頼も併せてしていただいた。

⑵　土曜日の開催（４回）ということで，比較的参加される方々の都合がよく，約 40 名の方々が参加してくださった。小中学生と一緒に輪になって唄，踊りを繰り返すことでこどもたちも少しずつ覚え，唄って踊ることができるようになった。

4　学習の成果等

伝統文化の継承活動を行うことで，こどもたちには地域の文化を学びたいという気持ちがより強くなったと思われる。普段会話をしない方々とも，会話をすることで親しみがでてきたようだ。地域でも小中学生が率先して八月踊りに加わり地域の方々も大いに喜んでいる。

5　活動の工夫や配慮事項等

⑴　覚えてもらうために，歌詞を広幅用紙に書いて事前を準備した。

⑵　普段から親しませるために，録音した八月踊り唄を校内放送で流した。

体験・行事支援タイプ

古老に学ぶ米作り　～餅米を作ってもちつき大会をしよう～

学　校　名	大和村立大棚小学校	対象学年	１年生～６年生
支援活動内容	苗床作りから稲刈りまで，準ＰＴＡや老人クラブの方々に教えていただきながら取り組み，もちつき大会を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

⑴　稲作の体験を通して，日本人の主食である米の作り方を学ぶと共に，米文化における様々な知恵や伝統を受け継いでいこうとする態度を育てる。

⑵　地域の人々とのふれあいを通して高齢者を敬い，郷土を愛する心を育てる。

２　支援ボランティアの依頼方法

ＰＴＡ会長を通して準ＰＴＡに協力を依頼するとともに，学校長から老人クラブに協力を依頼する。

３　支援ボランティアの出番

⑴　田起こしや代かき等，田植えまでの作業は，準ＰＴＡの方を中心に数名で行った。

⑵　田植えには老人クラブの方を中心に 20 名程の方が参加。老人会長さんに，車も道路もない時代の米作りの様子をお話しいただいた。その後，お婆ちゃん達の田植え唄とチヂンの音が響き渡る「かがやきの田」で田植えを行った。

⑶　稲刈りでは，老人クラブの方を中心に 20 名程の方が参加。稲の刈り方，刈り取った稲のくくり方や運び方について実演を交えて教えていただいた。刈り採った稲は旧校舎に運び，室内で掛け干しした。

⑷　脱穀には，老人クラブの方 10 名程が参加。足踏み式脱穀機や唐箕を使った。作業前に脱穀機を使うときの注意点，唐箕の仕組みなどについて説明していただいた。

４　学習の成果等

苗床作りから収穫までの一連の作業を高齢者の指導をいただきながら経験させたことで，二つのねらいをほぼ達成することができた。精米・もちつきの作業でしめくくり，最後は，ついたもちをプレゼントすることで，高齢者に感謝の気持ちを表せるようにしたい。

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　活動のねらいや，準ＰＴＡ，老人クラブにどのように関わっていただくか，校長を中心に，十分な打合せを行った。

⑵　高齢者を敬う気持ちを育てるため，活動の中で高齢者の豊かな経験や知恵に着目するような働きかけを行った。

体験・行事支援タイプ

校庭で行う稲作活動～自分たちでもち米を育て，もちをつき大会をしよう！～

学　校　名	宇検村立阿室小中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	地域の方々の協力をもらいながら，年間通して稲作活動を行い，勤労の苦労や尊さを知り，食べ物を大切にする心を育てる。		

1　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間等を利用し，校庭にある田んぼで苗作りから田植え，根かき，稲刈り，脱穀を行う「稲作活動」 を通して，勤労の尊さを知り，米を作ることの苦労や工夫を理解させる。

また，老人会方々を招いて一緒に餅つきや会食をする中で，米作りに協力していただいたことへの感謝の気持ちと尊敬の念を養わせる。

2　支援ボランティアの募集方法

校区の老人会長さんへ，活動の趣旨やねらいを説明し，老人会の協力や作業土道具等の借用を依頼している。

3　支援ボランティアの出番

(1)　４月「田植え」: 平田老人会の方々が 10 名ほど参加し，まずは苗取りを行った後,束ねた稲を持って横一列となり,15cm 間隔に植えていった。

(2)　７月「稲刈り」: 屋鈍老人会方々が 20 名ほど参加し，稲刈りの仕方を指導してもらった後，稲刈りを行った。刈り取った稲は，束ねて体育館の手すりに掛ける作業を行った。

(3)　８月「脱穀」: 阿室老人会の方々20 名ほど参加し，脱穀機やとうみの使い方の指導を行った後，脱穀を行った。

(4)　１２月「餅つき」: お世話になった３集落の老人会や保護者方々をお招きして，杵と臼で餅つきを行ったり，郷土料理を作ったりし，作業や食事をしながら交流を深める活動を行う。

4　学習の成果等

子どもたちが苗作りから脱穀を行うことで，お米作りの大変さや食べ物を大事にする心が養われ，給食等を残さず食べる様子が見られる。

5　活動の工夫や配慮事項等

(1)　活動のねらいの理解や協力を得るために，老人会長さんとの打合せをしっかり行う。

(2)　活動の終わりには，必ず「児童生徒の感想やお礼」を発表する場を設け，感謝の気持ちを伝える。

体験・行事支援タイプ

請ゆり観察会　～請島の自然にふれよう～

学　校　名	瀬戸内町立池地小学校	対象学年	全児童
支援活動内容	請島固有種「請ゆり」の保護活動を行っている「みのり会」の方々を講師として招聘し，請ゆりの観察会を行う。		

1　活用のねらい（学校の願い）

（１）　請ゆりの観察を行い，自然の豊かさや故郷を愛する心を育てる。

（２）　請ゆり保護活動を始めとする「みのり会」の方々の地域貢献活動を知り，地域の人に感謝する心情を育てる。

2　支援ボランティアの募集方法

請ゆりが見頃になる毎年５月下旬～６月上旬を観察会予定とし，「みのり会」の代表者へ授業の趣旨やねらいを伝え，協力を得ている。

3　支援ボランティアの出番

（１）　請ゆり自生地（大山）までの案内

（２）　現地到着後，請ゆりの生態や歴史，保護活動内容についての説明や質疑応答

（３）　請ゆりの観察（スケッチ）

（４）　みのり会の取組（集落作業や文化財保護等）や昔の請島の話など

4　学習の成果

（１）　貴重な植物が自分たちの住む地域に生息していることを知り，自然の豊かさや自然を守る方々への感謝の言葉が児童から出ていた。

（２）　児童は，年に１度の請ゆり観察会を毎年楽しみにしている姿が見られる。また，請ゆりの特徴（花びらの枚数や形，色など）をよくとらえており，興味関心が高まっている。

（３）　観察会をとおして，学校（児童・職員）と地域の方と交流する機会が増え，他の教育活動へも協力していただきやすい体制づくりにつながっている。

5　活動の工夫や配慮事項等

（１）　活動後には，児童が感想とお礼を述べ，感謝の言葉を伝えた。

（２）　授業後の感想や学びを地域に発信する工夫を行う。（壁新聞を作成して，地域の待合所に掲示。学校だよりに活動内容を記載。）

（３）　開花時期が５月下旬～６月上旬と短い期間のため，こまめに連絡を取り合い，日程調整を行う必要がある。

様式

体験・行事支援タイプ

地域に学ぶ環境学習～郷土の自然の良さと課題について考えよう～

学　校　名	龍郷町立龍南中学校	対象学年	第１学年
支援活動内容	支援ボランティアを活用して，郷土の自然について学び，外来種の抜根作業をとおして，外来植物の分布や身近なところに生息する貴重な在来植物について考え，これからの奄美の在り方について考える。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間を活用し，奄美の自然に詳しい支援ボランティアの方に身近に存在する植物について教えてもらうことで，郷土の自然に興味・関心をもたせる。また，外来植物の駆除活動に取り組むことで，奄美の自然の抱える課題について考えて問題解決に取組む意欲を育成し，郷土教育の充実を図る。

２　支援ボランティアの募集方法

環境教育に関して，以前からお世話になっている校区集落在住の支援ボランティアの方の協力のもと，環境省奄美自然保護官事務所（奄美野生生物保護センター）の職員の方を講師として依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　世界遺産登録や身近に生息する在来種・外来種についての学習及び抜根作業についての説明

⑵　校外での，外来種「セイタカアワダチソウ」の抜根作業

⑶　抜根作業をとおして学んだことのまとめを行い，今後の奄美の自然を守るために必要なことについて考えさせる。

４　学習の成果等

子どもたちは，普段何気なく生活している身近なところに存在する在来種の貴重性や外来種の及ぼす影響等について真剣に考えることができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

・活動への関心を高めるために事前学習の時間を確保し，十分な説明を受けたうえで活動に取り組ませる。

・奄美の自然を守るとともに，これからの奄美について考える機会とする。

様式

体験・行事支援タイプ

海　洋　教　室

学　校　名	喜界町立早町小学校	対象学年	第５・６学年
支援活動内容	シュノーケリングで海に入る際の装具（シュノーケル等）の説明，着装支援，観察道具の使い方や観察の仕方などの指導・助言		

１　活用のねらい（学校の願い）

喜界島の海に実際に潜って観察したり，磯辺の海洋生物を採集したりするなど，島の豊かな自然に直接触れる活動を通して，サンゴや海洋生物，島を取り巻く海に興味・関心をもち，もっと詳しく調べてみたいという意欲を高めることができる。

２　支援ボランティアの募集方法

喜界島サンゴ礁科学研究所と連絡を取り合い，天候や海の状況などを含め，日程や必要物品等を調整していくようにした。

３　支援ボランティアの出番

⑴　シュノーケリング装具の説明
⑵　シュノーケリング装具の着装支援
⑶　観察道具の使い方，観察の仕方の説明
⑷　観察活動の指導・助言

４　学習の成果等

装具を付けるのは初めてという子どももおり，予想より少し時間がかかったが，研究所の職員の方々の指導で安全に海洋教室を実施することができ，子どもたちも意欲的に活動に取り組む様子が見られた。

５　活動の工夫や配慮事項等

・　子どもたちは海が身近すぎるために，危険に対する認識が低い面があるため，海を研究している研究所の方からも，安全面への十分な配慮について，子どもたちに伝えてもらうようにする。

様式

体験・行事支援タイプ

八月踊り指導

学　校　名	喜界町立早町小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	運動会において全参加者で踊る八月踊りの児童への事前の演舞指導		

1　活用のねらい（学校の願い）

校区内の各集落で行われている八月踊りを集落の方から教えていただくことを通して，八月踊りの踊りを踊ることができるようになるとともに，地域の文化や伝統のよさを知り，それらに自ら積極的に関わり，大切にしていこうとする気持ちを高めることをねらいとする。

2　支援ボランティアの募集方法

その年の担当地区（合併前の旧小学校校区）の集落の婦人会に依頼し，担当集落や踊る曲を決定してもらうとともに，担当となった集落で指導に参加できる方を集約して，指導に来ていただくことになっている。

3　支援ボランティアの出番

⑴　踊りの基本的な振り付けのお手本

⑵　子どもたちの踊りへの指導

4　学習の成果等

運動会のプログラムの最後に組まれた八月踊りで，運動会に参加してくださっている保護者や地域の方々と一緒に楽しく踊ることができた。

5　活動の工夫や配慮事項等

合併前の旧小学校校区（４校区）に持ち回りで指導していただくため，早めにお知らせをして，指導に参加できる方を確保していただく必要がある。

様式

体験・行事支援タイプ

郷土の伝統を継承しよう～「池間棒踊り」を学ぼう～

学　校　名	徳之島町立母間小学校	対象学年	３年～６年
支援活動内容	地域に伝わる伝統文化「池間棒踊り」を保存会の方から指導・支援していただき運動会で発表したり継承につなげたりする活動を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間に，池間棒踊り保存会の方をゲストティーチャーとして招聘し，地域に伝わる伝統文化を習得していく活動を通して地域の歴史や人々の思いなどを感じることで郷土理解や郷土愛につなげたい。

２　支援ボランティアの募集方法

保存会の方へ活動のねらい,練習方法などを相談し，授業での指導と運動会での発表の際の合同参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　踊りの由来や基本的な動作を保存会の方に説明してもらいながらリズムに合わせて動きを覚えていく。

(2)　保存会の方のかけ声等が入ったCDを活用して動きやかけ声等を習得していく。

(3)　保存会の方々と一緒に動きの確認をしながら踊りを仕上げる。

(4)　運動会では，保存会の方も参加してくださり発表を盛り上げてくださった。

４　学習の成果等

(1)　児童からは，「複雑な動きもあったがリズミカルに棒を振ったり相手と音を合わせたりすることで練習に集中することができた。」「池間棒踊りの歴史を知ることができてさらに勇ましく踊りたくなった。」という感想があった。

(2)　保存会の方からは，「保存会も高齢の方が増えてきたため，このように児童に伝える機会があるのは大変好ましいことだ。」との感想が聞かれた。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　大切な伝統文化を保存していくため，敬老会など他の機会を捉えて発表や練習を続けていく。

(2)　CDやDVDなどを活用，保存会の方との交流など練習方法を工夫することで意欲を持続させ，後継者育成にもつなげていきたい。

体験・行事支援タイプ

地域の知恵を学ぼう　～　高齢者とのふれ合い活動　～

学　校　名	徳之島町立花徳小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	地域に伝わる自然物を利用したおもちゃ作りや昔の遊びを交流を通して教えていただく。		

1　活用のねらい（学校の願い）

高齢者のもつ知恵や郷土の文化・遊びを交流を通して知ることで，郷土を見つめ直す。

ソテツ細工体験活動

2　支援ボランティアの募集方法

担当者が校区の老人会長を通じて，学習活動のねらいや趣旨を説明・相談し，会員への活動参加を依頼。

3　支援ボランティアの出番

校区３集落各老人会３１人が低・中・高学年に分かれて，昔のおもちゃ作成の指導や児童とのふれ合い活動を実施

・低学年

昔の遊び【なり（ソテツの実）を使った細工，ソテツの葉を利用した物作成】

・中学年

アダンの葉の風車，たたき駒つくり

・高学年

高齢者・児童が各チームに分かれてグラウンドゴルフ

たたき駒の巻き方はね！

ナイスショット！

4　学習の成果等（児童の感想）

・　ぶんぶん駒，風車つくりを教えていただき有り難うございます。今日のことを生かして自然の物を使っていろいろな物を作ってみたいです。

・　おじいちゃんがたたき駒を短い時間で作ってくれました。回し方が難しかったけど，コツを教えてもらったら簡単に回すことができるようになったよ。

・　おじいちゃんやおばあちゃんたちが，グラウンドゴルフが好きな理由が分かりました。スコアがおじいちゃんたちに近づくとうれしかったです。

・　私の家族のことを知っているおばあちゃんがいて，楽しくお話をすることができました。

5　活動の工夫や配慮事項等

・　活動後，ふれ合い学校給食を実施した。

・　活動後のお礼を児童の言葉や活動の写真を添え各老人会長さんにお渡しした。

・　おもちゃ等作成した作品は，学習発表会で展示発表した。

活動後のふれあい給食会

様式

体験・行事支援タイプ

地域の先人に学ぶ郷土学習　～ イッサンサンについて知ろう！ ～

学　校　名	伊仙町立犬田布小学校	対象学年	４年生
支援活動内容	地域に伝わる伝統行事について深く学ぶために支援ボランティアを活用して，イッサンサンの由来や歌，踊りを知る。		

１　活用のねらい（学校の願い）

みさきタイム（総合的な学習の時間）において，地域の方をゲストティーチャーとして招聘し，各集落で行われているイッサンサンの由来や継承していくことの大切さを知ることで，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1)　地域の方に，イッサンサンの由来や歴史について伝えていただく。

(2)　地域の方との交流を通して，あいさつや礼儀の指導もあわせて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

○　４年担任が，地域の方へ授業の趣旨やねらいを相談し，授業への参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　イッサンサンの歴史に非常に詳しい方が参加してくださった。まず始めに，イッサンサンの由来や継承していくことの大切さを話していただき，その後，歌や踊り等について指導していただいた。

(2)　子どもたちの質問に答えたり，子どもたちが調べてまとめたパネルを見たりしながら，適時具体的なアドバイスもいただいた。

４　学習の成果等

子どもたちは，古くから伝わるイッサンサンについて改めて深く学ぶことで，地域への思いをさらに強くした。また，伝統行事を守っていくことの大変さと大切さを学ぶことができた。

地域の方も，子どもたちとのふれ合いだけでなく，幼い頃からあるイッサンサンを，子どもたちが引き継いでくれていることを大変喜んでくださった。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　支援ボランティアの方に，活動のねらいを十分に理解してもらうために，事前の打合せが必要である。

(2)　活動後には，支援ボランティアの方に，子どもたちのお礼状を渡す。

体験・行事支援タイプ

地域とのふれあい会　～　レクリエーション・島口教室　～

学　校　名	伊仙町立喜念小学校	対象学年	全学年（１～６学年）/１・２年（生活科） ３～６年（総合的な学習の時間）/２時間
支援活動内容	○はじめに，地域の方々とレクリエーションで交流を深め，その後徳之島（喜念小学校校区）で使われる方言（島口）の意味や使われ方を地域の高齢者の方々に詳しく聞き，インタビューする活動や調べて分かったことをワークシートにまとめる活動を通して，地域の良さを知ることをねらいとしている。		

１　活用のねらい（学校の願い）

喜念小学校の子どもたちは，普段の生活の中で島口を使うことが少ない。地域の高齢者との交流を深めながら，地域の大切な文化である島口を学ぶ学習を通し，地域文化の素晴らしさを実感することができる会にしていくことをねらいとしている。

地域の方々と一緒に

２　支援ボランティアの募集方法

寿会（地域の高齢者の会）の会長さんと連携を図り，地域の高齢者の方々に声を掛けていただいた。御陰様で，当日は２３名の方々が来校してくださった。

３　支援ボランティアの出番

（１）レクリエーション（ペットボトルボーリング）を通して，地域の高齢者の方々との交流を深めた。

（２）グループごとにお互いの自己紹介等を行った。

（３）事前に，「意味や使われ方について聞きたい島口」をそれぞれの児童に準備させておいた。それを基にしながら，自分が知らない・分からない島口の意味や使い方を地域の高齢者の方々に聞き，分かったことや感想をワークシートにまとめる活動をした。

島口について質問する様子

４　学習の成果等

子どもたちは，毎年恒例の行事になっているこの「地域とのふれあい会」をとても楽しみにしている。まず，レクリエーションを通して交流を深め，その後子どもたち自身が普段何となく耳にしている島口の意味や使い方について知り，分かったことをワークシートにまとめるという活動を通して，地域の良さを再認識することができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

（１）活動のねらいを地域の方々に理解してもらうために，寿会の会長さんとの連携を密にする。

（２）活動後は，活動の様子の写真を添えて地域の高齢者の方々にお礼状を発送した。

（３）調べたことや分かったことは，それぞれの学級でお互いに発表する場を設けた。